武家名目抄稿

弓箭部

三

和書門

類	號	函	架	冊
	二五二〇六	七七	九	中中九

四五六

内閣文庫

和書	内閣文庫	
類	二五二〇六 號	一五三 函
	四五六 冊	一三 架

内閣文庫

番號	和 25206	
冊數	457(285)	
函號	153	275

国立公文書館
National Archives of Japan

武家名目抄稿第三冊

弓箭部二之上目録

重藤 滋藤

圖書寮文庫

内閣文庫

真重藤

シコメノ滋藤

四足弓

弭ニ角入タル重藤

村重藤

国立公文書館
National Archives of Japan

本滋藤
追重藤 今无
吹ヨセ滋藤 今无
吹ヨセ藤
相位弓
笛藤
塗籠藤
塗籠

千檀藤
所藤
二所藤
陰陽弓
二所藤塗籠タル弓
三所藤
七所藤
福藏弓

武家名目抄稿第三冊

一　弓箭部二上

重藤　滋藤

下學集云重藤シケトウ重或作滋

平治物語待賢門軍　さへもんの事　地條云

うゑ人廿三あゝちもふしきれひしゝ毛に

さしれふほひのまひふてとうれまる

のまそそうふものをけくうさせりさつ

らのくふとのをくしめて小からせといふこも
をさたをきりふのゆもれひちげとうれゆもも
ちて云〻
平家物語見こしふ云まさ大しゆれゆへいひ
り外係
をくるむあり其つくひハわくふへのち
やうたいとふふとそとあふ其日ききち
んのひくれこさくらをきに乗く
ちよろひきてしやくとうつくりれとち

をさたをたせ四さいとる左らをれ矢れひちげと
うのゆきつきるもさくふとをぬいてれ
くひもまつけ神ちれ法まへまつしこゆりて
云〻
源平盛衰記與一射扇條云サラハ与一トテ被召
タリ其日ノ装束ハ紺村紺ノ直垂ニ火威
ノ鎧鷹角反甲居頸ニ着ナシ廿四差タル
小中黒ノ矢負ヒ滋籐ノ弓ニ赤銅造ノ太

刀ヲ帯

梅松論云東の海道ハ太宰少貳頼尚五百余騎皆馬ども引を立て文へたり（中略）将軍其日多筑後入道妙恵の頼尚を以ていとゝ中者りし赤地の錦の直垂に唐綾威の御鎧に五枚二あり一ハ御重代の脅食也重藤れ一匹弓ハ上矢ぬきさゝ御馬ハ黒猫毛是ハ宗像の大宮司ゟ昨日をゝ中たまりしなり

古今著聞集云後鳥羽院御時伊与国ゟ

一てゝ鳥といふ不ゟ天笠の冠者とゝ

のあり（中略）ゆの冠者所ゟとりそめれ水干に反毛のむゝきを大をきて志ゝ乃

弓に乃やおゝ毛ゝ竹笠をきゝりきり

普廣院殿御元服記云永享二年七月廿五日大将御拜賀供奉行列出仕人々伺候次第（光）蹲踞侍所（帯ニ甲冑一于時赤松左京大夫入道性具依為法躰一斟酌舎

弟伊豫守義雅勤ニ其役郎従三十騎召具之義雅者着ニ浅黄糸鎧帯ニ金刀金太刀握ニ重藤弓

今川大双紙云ていむやう軍陳の弓弦ハ下地を黒ぬりにして千さん巻をして其上に志げ藤をつゝふへし

弓馬故實云重藤乃弓と云事ハ籐まそふ弓也黒くぬり藤を白くはこのふ也

弓箭條〻云重藤の弓ハ誘やう二寸斗の藤をはゝふ也交ハ五分也一寸斗也巻數ハ

小笠原流まハ不定也

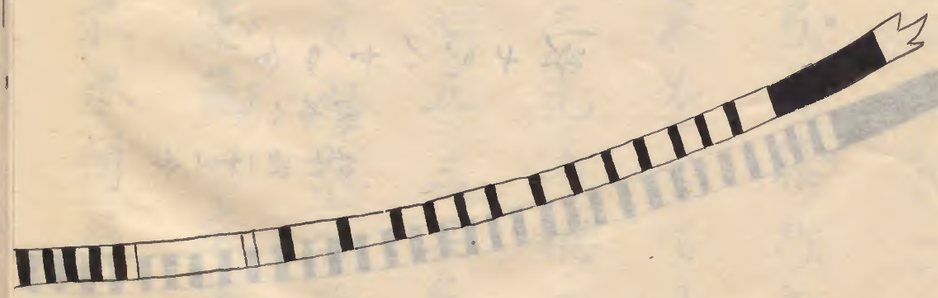
弓法私記云重藤のつゝひ様うらをす六寸矢ぢ里本をす五寸上下をすきハまてたゝさる様まつゝふ也きハまハ細く上へ高くつゝふ也扨其外ハ間を五分ヅヽ置て籐の廣サ二寸ヅヽつゝふ也藤の數ハ不定弭まハうらをすり細く二ツ本をすまハ細く一ツつゝふ也如

此藤の廣サ間の廣サ定りたれ共うらも
すまて如此同すゝつゝへハ弓の細きに
て藤のふとく見えて見にくきなり
少上ハ藤乃間をも細くつゝひゝるう
能也是ハ故實也惣て去けとうつゝふ
弓を前にあるにをく下をせんゝ巻ヨ
巻て黒くぬり藤ハうふ也又軍陣なと
へ持弓のうらをす本をすす朱をさす事

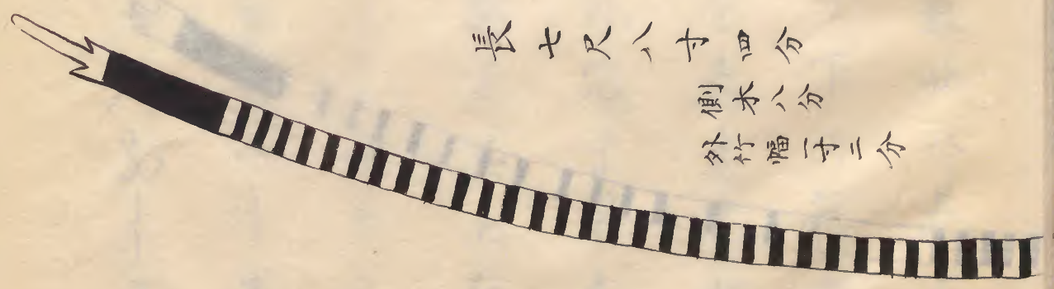
あり是ハ虵の舌を表しゝる故也
弓法私書云重藤ノ弓ハ必セキ弦ヲカク
ヘシ
武将記云一弓支シケ藤ヲ握ノ下ニ中ヲ
カケスシテ巻其以下若ハ一寸若ハ一寸
五分若二寸思々ニ巻藤長ノ程ニ中ヲヨ
クル也此弓ヲ将軍ノ外ハ不持也
射手方聞書云軍陣の時弓こしらふ事

ふきりより上ハ藤の數廿八是ハ天の廿八宿を表する也にきり下の藤の數三十六是地の三十六きんを表する也ふきりの下ハあいせん明王乃咒まをあてんの咒をうすやうに書て巻て真上を赤地のふしにして巻て紫革にてにきりを十五ふまくへし黒革にても巻へし黒革ハ平人の儀なり此事おれる人あらしこと

伊豫國三嶋社藏



一



真重藤

一大坪道禪鞍鐙記云弓。ハ。藤。乃き不の事節毎ゝ遣ひて上下れ藤を合て十五也是ハ天神七代地神五代三光の徳也是重。藤。と名付也又裏弭ら七五三共巻へ一昔て り是等をも重。藤。とも也然共今れ重。藤。と云ハ又各別也今れ重。藤。ハ本藤の外ようら弭乃方ゝ三十六不本弭乃方ゝ廿八不

是ハ本藤間ニ如斯きゝる城真の重藤
といふ也知る人稀成るへし藤を志けく
きゝるハ志たるく可悪哉也此重藤ハ天
子將軍ゟ外戯酌きゝる角

シコメノ滋藤

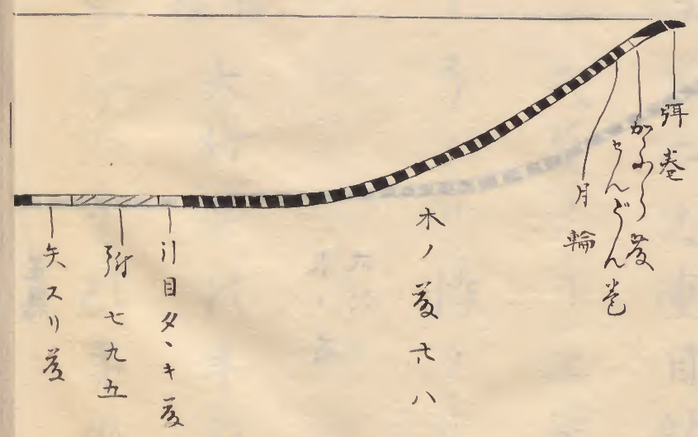
岡本記云弓をうんくふこしらゆる事も
人のいさうふてこれをこれをきゝる事也
いろこゝろくにたゞめい事これハ心あり
たゞめこゝろ弓ハ志やをゝくゝふゆへふ
り

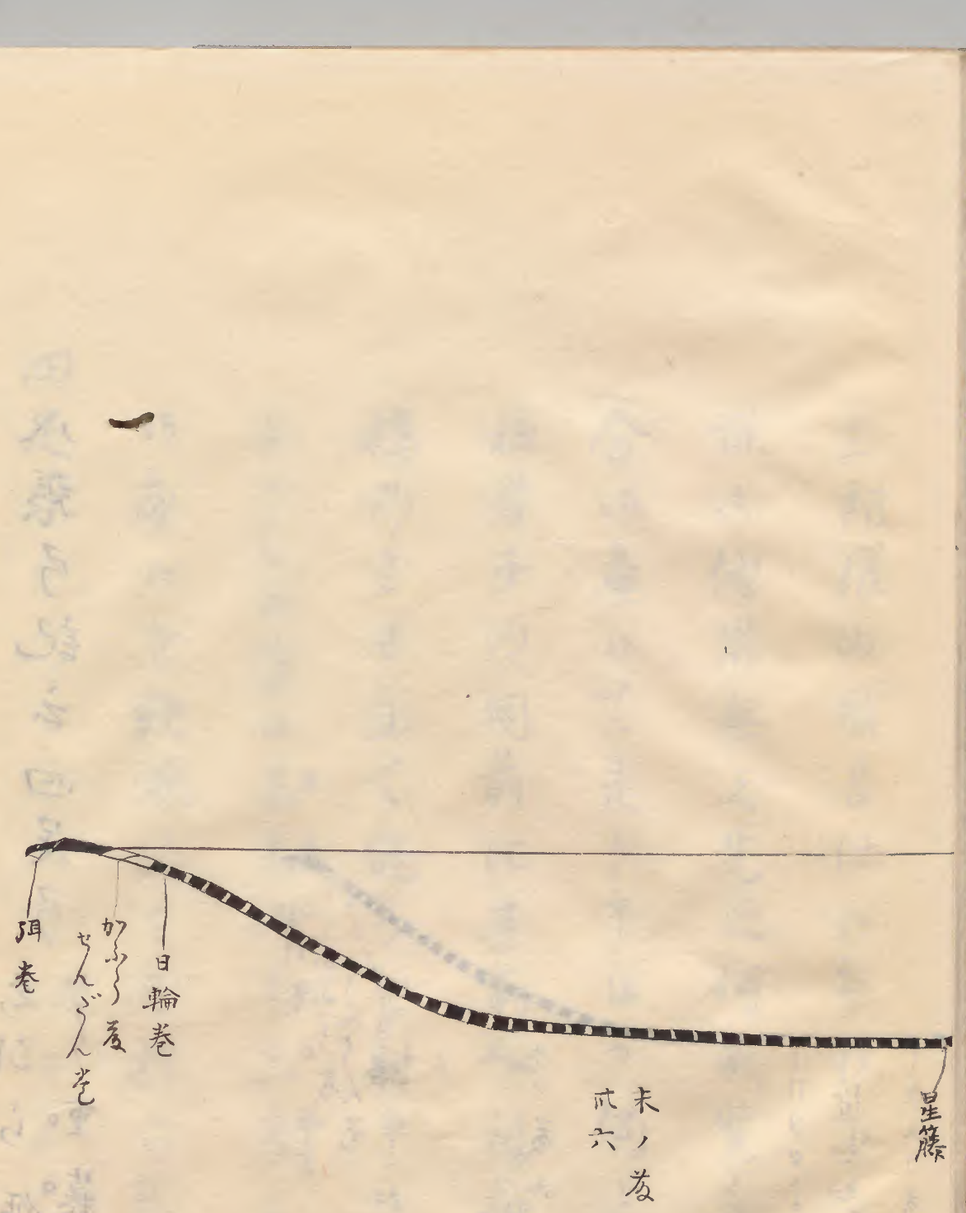
五野勝成記云惣別是ハ射手にて座ハ志
こめの重藤の弓にて座ハを鉄炮まてう
ちゐら也捨中時我共可申ハハくまてハ
覧のことく如斯働ハへゝをゝや弓を打お
られハ間不及是非中ハ
續武家閑讀云飯橋甚五郎と申もの是て

三郎様の被召仕いたものゝ五座に三郎様は他界無之先に何哉覽なの弓ゝ仕合五座にて走り中に何と仕ゝや其時拙者もの同前に其不人被越さらの木ゝ搗乃きゝ召て能弓を射中に惣別是ハ射まゝて五座に志おめ〻志ゑとりの弓みて五座にを鉄炮にてお折らを搗中に

四足弓

八張弓記云 四足弓 志ひら征矢ハ可添弓なり 重藤の弓是也





弭ニ角入タル重藤

一源平盛衰記金剛力士兄弟條云市夜叉双瀧夜叉トテ大ノ童ノミメヨキ二人重目結ノ直垂ニ菊閉メ下腹巻ニ矢負タリ上下ハスニ角入タル茲藤ノ弓ヨソ持タリケル

村滋藤

武者物語云實撿書條大將軍ハ年の人おさハ勿論の儀也ちかくハ年ハ年の人を大將

と首の間ふ立てむら重藤乃弓を持ち
し首の左右ふ山鳥の羽乃うふら矢を二
筋ゑへし首より四尺ち重張弓を置へし
弓より一丈ちり大将海しまゆなり

本滋藤

大平記 関東大勢上洛條云 長崎四郎左衛門尉纈纈
一ノ鎧直垂ニ精好ノ大口ヲ張セ紫下濃ノ
鎧ヒ白星ノ五枚甲ニ八龍ヲ金ニテ打テ
著タルヲ猪頸ニ著成シ中略三十六差タル
白磨ノ銀筈ノ大中黒ノ矢ニ本滋藤ノ弓
ノ真中握テ小路狭シト歩マセタリ

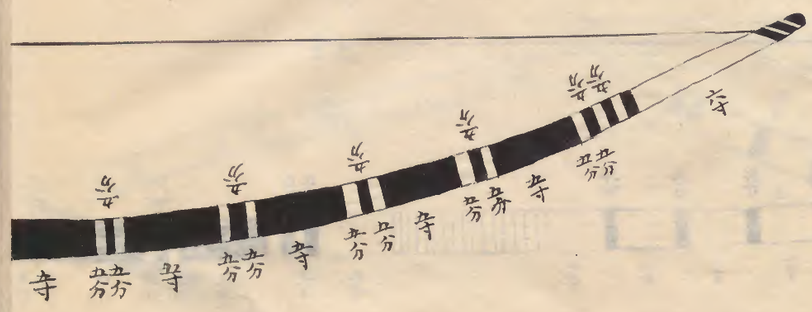
庭訓往来云弓者本重藤塗籠藤塗籠糸裏
等加弦巻

隨兵次第云弓ハ本重藤うら二不をうを
つくふへし何も白藤ふるへし是ハ當家
の弓の拵やう計なり

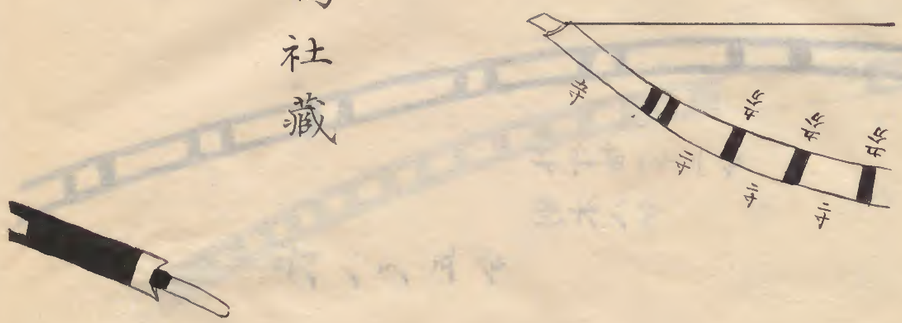
高忠聞書云ふ如是より下ゟ出たけとゝに巻てすき目の上を二巻ゟ巻たる出たけとゝをゝ小笠原殿武田殿持之ゟ者持まゝき事也

弓馬故實云ふきり下を重藤ゝて握より上を二ツ藤ふゝる弓の事本重藤と云也是ハ人ゟ入りて斟酌ゟる弓也ゟゝの人ハ持ぬ也秘事の弓也

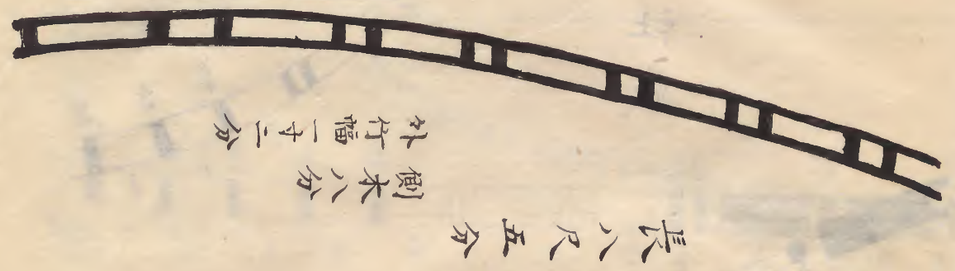
相模國鎌倉鶴岳八幡宮藏 相傳武田信豊ノ弓也



伊豫國三嶋社藏



国立公文書館
National Archives of Japan



長八ン八五分

外側木八分

外竹幅一寸二分

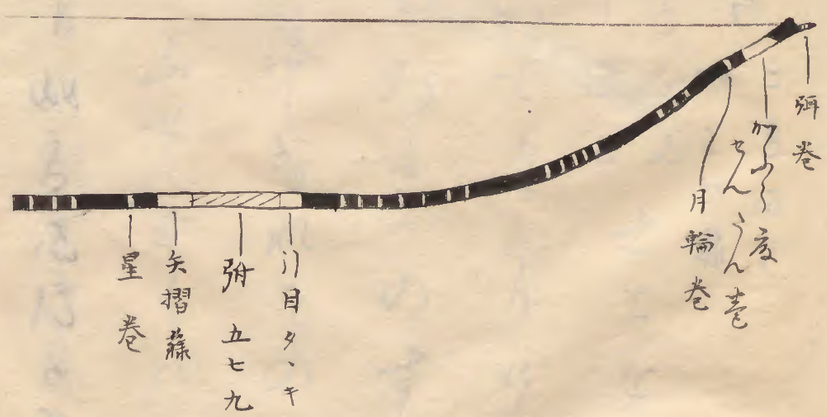
国立公文書館
National Archives of Japan

吹ヨセ藤

曽我物語 けつをなんとせ 條云 せこをやふりて
きゝすて三のしらいてきこうろれこれハ
いりふと見ふとこうろのようのすけつをこ
そおつすゝひてふ落しをれその日れしや
うそく花やゝありふせんきてうれひこれ
な大まらのむゝうハ犯ようきうのやお
ひふきよせとうのゆゝうのまんふゝとう
きんしやみてうらうちうるうきをんの
ざけうきあらしよぬきふひゝせ云〻

相位弓

八張弓記云相位弓 吹ようせ藤 こきあり


弭巻
月輪巻
星巻
矢摺篠
弭 五七九
川目タヽキ

弭巻
日輪巻

笛藤

平治物語（内裏勢揃條云）次ふん中くらの方ちんと
もふう十六さ（中略）ちらのふ白鳥のむまく
ち紀くるやをひふえ。とう。ゆ。ゆみもちて
云〻

源平盛衰記（高綱渡守治川條云）高綱ハ褐衣ノ直垂
ニ小櫻ヲ黄ニ返タル鎧ニ鍪模打タル冑
ニ笛藤ノ弓ノ真中取リ廿四差タル石打
ノ征矢頭ヲ高ニ負ヒ嗔者造ノ大刀帯テ
云々

又云（与一射扇條）サラハ十郎トテ被召タリ褐
ノ直垂ニ洗皮ノ鎧ニ片白ノ甲廿四差タ
ル白羽ノ矢ニ笛藤弓ノ塗籠タル真中ト
テ渚ヲ下ニサシクツロケテソ參タル

塗籠藤

保元物語云大将とかゝ〜き者のかちん

のひたれよあゐ志ら地のきふ〻しと
るよろひきて黒ものの矢おひぬりこめ藤
の弓を持きゝらけある馬ふゝいくら
をいてのつゝりゝる
平治物語云清盛の給ひゝるハふせく兵
よもち者侍ゝふゝれもこそ是迫敵ハち
〻つくらめいてゝさらハうけんとてこん
の直垂よ黒糸おとゝ乃鎧きて黒ぬりの
太刀をもき黒ゐるの矢おひぬりこめと
ゝの弓持て黒き馬よ黒くらをゝせての
り給へり
平家物語山門ゝ法云十郎くらんとゆきい
へハこんちれおゝきれひゝれにくろい
とをとゝれよろゐきてこゝ志川のゝち
をもき廿四さしゝるくろはろれやおひ
ぬりこめとゝれゆゝつきふもきゝ云〻

源平盛衰記（新八幡頼書條云）覺明其日装束ニハ
褐衫鎧直垂ニ首丁頭巾ノ横縄目ノ冑ニ
黒ッ羽ノ征矢負テ三尺二寸ノ赤銅造ノ
太刀ヲ帯塗籠藤ノ弓脇ニ挾テ左ノ手ニ
願書ヲ捧ケ右ノ手ニ筆ヲ以テソ歩タリ
ケル

判官物語云（頼朝上総の国越給ふ條）とう九郎もり
なりはうちんのひしゝゝれにくろうはお
とし（ゝ）ちまたくろ川きの矢さてぬり
ご。ぞ。とう。れ。ぞ。ゝ。もちてきけの八郎乃も
とよそきさりけろ
軍陣聞書云とうハ白き本也ぬり。ぞ。め。と。
う。ぞいふハ志ゐとうの上を赤うるしふ
きぬりをろをいふあり惣ゝてうるしふ
てとうれうへをぬる事略儀あり
的出張記云塗こ。ぞ。とう。のうふをいてハ

唯人も持ふり

播州佐用軍記云 城中寄手陣樗丸ハ今年十九歳其長六尺余リノ大力也中略此故ニ政範常ニ近習ニ侍シム其夜ノ出立態ト鎧ヲハ諸共ニ着代タリ塗籠藤ノ弓銀ノ弦打タル五人張十五束ノ征矢森ノ如ニ負ナシタリ、

又云 十二月十五日上月城攻條 川嶋頼村高嶋ヘ申ケルハ中略矢比能候ハンニハ一矢仕ランモノヲト戯ケレハ高嶋ヲ始小林鶏野何レモ然ヘウ候ハン歟ニ興ラサマサセ給ヘ見物申サントト勸ケリ川嶋サラハ仕候ハン射損ナハ御笑種ト頓テ郎従ニ持セタル塗籠藤ノ弓銀弦打タル追捕弓絃喰湿押シ張リ中黒ノ征矢凡揺シテ唯二筋件ノ弓ニ捕添テ矢挟間ヨリ指覗キ居タリ

キ

塗籠

十六 長門本平家物語云義経始院参條云 九郎義経に
あひくして六人をぬりけるぞ殘り五人う
中一人ハ畠山庄司重忠河越太郎重頼渋
屋三郎庄司重國梶原源太景季佐々木四
郎高綱重忠より始て次第に名乗て六人
の兵ども甲をは皆ぬぎすてたり直垂をよ

ろひも思思の色々にぬりなされと
も弓は皆ぬりこめてぞぬりける
源平盛衰記云 鵜尾三郎一谷紫内者條辨慶候トテ進
ミ参ス装束ニハ褐衣ノ直垂ニ黒皮威ノ
冑ニ同毛ノ甲ニ三尺五寸ノ黒漆ノ太刀
帯テ黒ツ羽ノ征矢負テ塗籠ノ弓ニ好ム
長刀取具テ馬ヨリ下軍將ノ前ニアリ
ぎかたち草紙云亀井の六郎志ゑきよハ

ひときハまくまで出立けり（中略）白あやのふ
ろをさんとうあぬりごめのゆミ四人
ありせゑのせきはるうけさせまん中に
きりよせくへ云々

千檀藤

曽我物語云かた川うされし條いとうちやくし
かはつの三郎そきさりけるおもしろく
こそ出しうちさまあれのくすりはくしたる

るあひくまひきゝかしたるひさゝきま
まあらのむゝたかすそさふやゝみたか
あしはるのかとし給ふてそひさるたら
こしらへのたら屋たかさるまおひなし
ぜんざんどうのゆミのまんなかとりも
ゑかうらつけたる竹かさこからしにふ
かそらせ云々
今川大双紙云きいむやう軍陣のうをさ

下地を黒ぬりまして和ぢぱ巻をして藤
をせうふへし
弓法私書云弓ノ。セ。ジ。タ巻の事コシラヘ
様ハ下ヲシケク巻目五歩間ヲ五歩ハカ
リヲキテ糸ニテ巻テ其上ヲウルシニテ
ヌリコメタルヲ。セ。ジ。タ巻ト申也
射御拾遺抄云隨兵軍陳なとれ弓ハ下地
黒くぬりてせ。ん。だ。ぢ。ず。ぢ。せんさん巻
といふ事を地乃躰を表する也其上ふ志
げとう茂せうふ藤の寸法二寸ハかりあ
い五分ハかり矢すり五寸計也うらをす
少長く本をすをし少短しうらをすあか
るへし

所藤

平治物語内裏勢揃ちやくしあくちん太よ
ひらをやう祢ん十九さい中略いしうち

のやをひとかろとりぬゆゝ　ゑちくうけ
ある馬のきやをきつるにくゝくらを
くせてちゝゝもの馬と同うらにひつゝて
さゝ

廿六　源平盛衰記云　與一射扇條　重忠ハ木蘭地ノ直
垂ニ裾縄目ノ鎧着テ大中黒ノ矢負ヒ所
藤ノ弓真中取リ騨馬ノ太ク逞ニ金伏輪
ノ鞍ヲキテ判官弓手ノ脇ニ進出テ畏

テ候

二所藤

保元物語云　山田小三郎為朝　こきゆきと
の矢ヨ中ラ條
しせハ身れさうと見ゝとり大の男れ
志ゝうものふりくろゐハをゝれ大
あらめのゐろひさうゝ志ゝるにくろ
ゝゝのやをい二。藤のゆゝもちてうけ
ある馬よくらをひくゝそのつゝりける

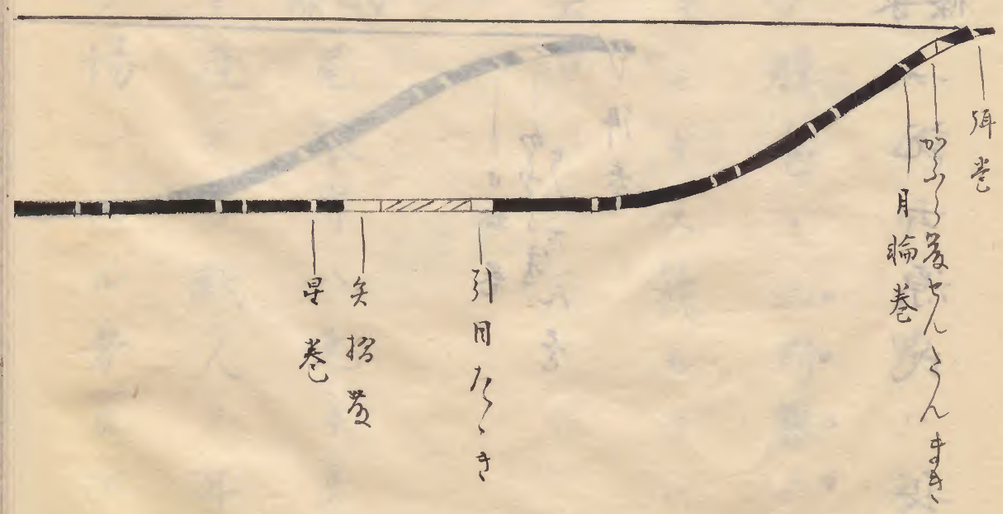
平治物語云（源氏勢揃條）次男中宮大夫とも（中略）
太らのゝ白鳥の羽ゝてゝいたる矢おひ
二所藤の弓持てゝ云〻
源平盛衰記云（熊谷向追手條）熊谷ハ褐冑直垂ニ
家ノ文ナレハ鳩ニ寓生ヲソ縫タリケル
黒糸威ノ冑ニ同毛甲大中黒ノ征矢ニ二
所藤ノ弓ヲ持テ紅ノ布露ヲ懸テ權太栗
毛ニ乗タリケリ

太平記云（本間孫四郎遠矢條）重氏上差ノ流鏑矢ヲ
接テ羽ノ少シ廣カリケルヲ鞍ノ前輪ニ
當テカキ直シ二所藤ノ弓ノ握太ナルニ
取副云々
義經記云（吉野山合戦の條）修行の代官ふ河くり
法師と申悪僧有（中略）石打の征矢の廿四さ
したるを頭高ゝおひなして二所藤の弓
の真中とりて云〻

曽我物語云きけつをゐ五郎うその日
んとせし條
れしゆうそくふい略つるれもとろれ
そやいつたうはゆひかし二ところ
ゆゑれまんるこのとりうけるむまにま
記云のくらをきてのつとり

陰陽弓

八張弓記云陰陽弓奪入女房むかひは行時可持弓也二所藤太
きゐ
り



二所籐塗籠タル弓

源平盛衰記云（平家七條）

一説云源氏ノ兵共哀

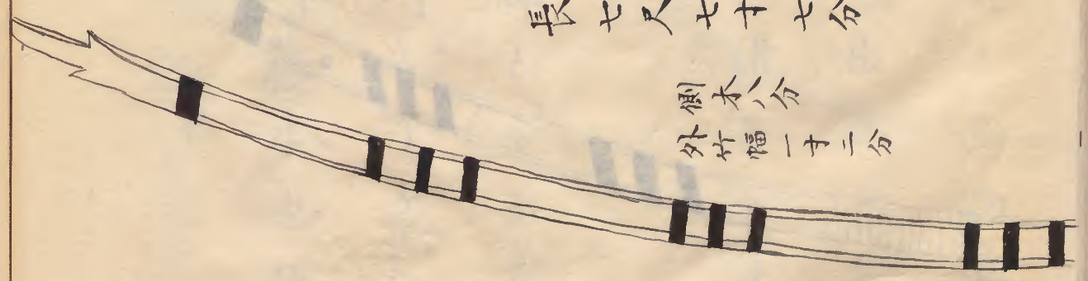
ト三ル處ニ年三十ハカリノ男ノ木蘭地ノ直垂ニ黒糸威ノ腹巻ニ二所籐ノ塗籠タル真中トリ曽ヲモキス簇モヲハス矢二三トリソヘテ云々

三所籐

太平記云（山崎久我尾張守ハ元ヨリ氣早ノ若武者ナレハ今度ノ合戰人ノ耳目ヲ驚ス様ニシテ名ヲ揚ンスル者ヲト兼テ暇合戰條）

有増ノ事ナレハ其日ノ馬物具笠驗ニ至
マテアタリヲ耀シテ出立レタリ（中略）タカ
ウスヘ尾ノ矢三十六指タルヲ箸高ニ負
成（毛利家天正本云三）所藤ノ大弓持云々
岡本記云御參宮の御とをふとまハ（中略）弓
ハくろくぬりくゝ三所とうゝるへし
的出張記云弓ハ三所藤本也作去大乃ミ
よ星ひ也

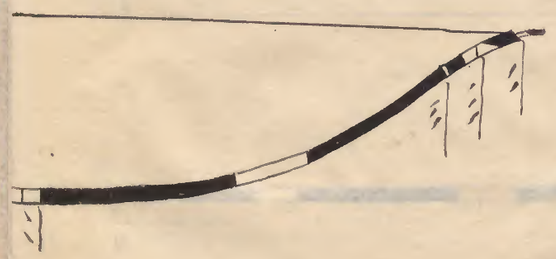
伊豫國三嶋社藏



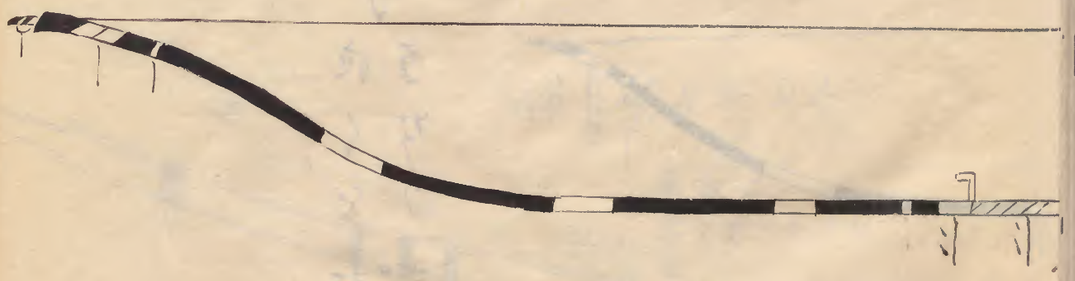
七所藤

福藏弓

八張弓巻云福藏弓ハ佐くを打軍陣ニ用ゐる弓なり七所藤ハ長き



武家名目抄稿第三冊



国立公文書館
National Archives of Japan

明治十五年七月廿四日旧稿校正　小野由久

同　年八月九日再校并書　木下鈴太郎

同年同月十五日以旧稿本一校加朱點了

明治十六年八月

校合　鈴木行一

圖書寮文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan